

1 本時の目標

360度 VR 動画を用い、無信号交差点の横断時に潜む危険を予測できるようにする。
特に、ルールを守っているだけでは防げない危険に対する自衛行動ができるようにする。

2 活動のめあて 見えないきけんを予測しよう

【学習で押さえていことがら】

- ・ 自分がルールを守っているだけでは防げない交通事故があることに気づく。
- ・ 横断歩道でも「かもしれない」と危険を予測して横断する重要性を理解する。

3 準備

学習用タブレット端末、資料②「信号が無い横断歩道 ワークシート」

※先に、マニュアル動画「交通安全コンテンツを活用してみよう！」をご覧くださいと、
流れが分かりやすいです。

マニュアル動画



📌動画の容量が大きいため、通信環境により各自で端末を利用することができない場合、グループ等の複数人で1台の端末を共有します。

4 本時のポイント

導入(5分)	(例)交通事故から身を守るために、どのような行動を心がけていますか？
活動 ①(5分) 動画を見たら、まずは ひとりで考えましょう	・ 動画は全画面再生で見ます。 ・ 動画は、スワイプすることで 360 度見るができます。 ・ <u>大人から正しい・適切な行動については教えません。</u>自分の考えと自己評価点を記入します。
活動 ②(28分) みんなで考えましょう	・ ②では、3つのポイントを見て、危険な車や人を見付けたら、グループ内で見付けたことを伝え合います。また、見付けた危険な車や人によって起こりうる事故や危険な場面について話し合います。 ・ 動画から見付けた危険な運転や歩行をする人の気持ちを話し合います。 ・ ③では、これまでの活動を振り返り、安全な行動や気をつけるポイントをグループで話し合います。 ・ ④では、「子どもだけでは防げない危険」という視点で、これまでの活動を振り返らせます。そうすることで、「大人にやってほしいこと」が考えやすくなります。 ※メモ欄は必要に応じて活用します。必ずしも埋めなければならない欄ではありません。 📌ワークシート裏面下に、鳥瞰動画の QR コードがあります。必要に応じて活用してください
活動 ③(7分) もういちど、ひとりで 考えましょう	・ 再度、自己評価点を記入します。<u>1回目の点数より下がった場合、交通安全に対する意識は、より高まったともいえます。</u>②に記入した理由に着目してください。 ・ ③については、話し合った②の③の内容から選ぶ方式でもよいです。 📌後日、ワークシートの記録を見て、その後も危険を予測しているかどうか振り返らせるとより効果的です。

※マニュアル動画を一時停止しながら、動画と一緒に活用し、指導いただくことも可能です。

VR きけん予知② 信号が無い横断歩道 指導のポイント

※ この教材は「子どもたち自身で話し合っ危険を考える」ことを主眼としています。この「指導のポイント」の内容を「正解」として伝えることは控え、話し合いがうまく進まない場合や、動画から危険をなかなか発見できない場合に「ヒント」として利用することにとどめてください。また、ここに書かれていない危険を子どもたちが指摘した場合でも、それらは子どもの視点からの発見ですから、けっして「誤り」や「不正解」とはしないでください。

🔊活動終了後、以下を参考に、動画上の危険な場面について解説を加えると有効です。

ポイント1:向こう側車線で停止しない車両



信号が無い横断歩道で歩行者がある場合、車両は停止しなければなりませんが、この交通法規を守る車両はかなり少ないのが事実です。

特にこの動画のように、大きめの車両が横断歩道前後にある場合には、向こう側車線の車両から横断する歩行者が見えにくくなります。特に身長の高い子どもたちは見落とされる可能性が高くなります。また、周囲が騒がしい状況(工事音や繁華街等)では、歩行者は近づく車両に気づきにくくなります。

ポイント2:停止車両の横をすり抜ける二輪車や自転車



四輪車が停止している場合でも、その横を二輪車や自転車がすり抜ける場合があります。信号が無い横断歩道で歩行者がある場合、二輪車や自転車も停止しなければなりませんが、この交通法規を守る二輪車や自転車はかなり少ないのが事実です。

特にこのような運転者は先を急いでおり、歩行者が横断を始めていても無理やり通過する可能性があります。

ポイント3:走って横断する歩行者



信号が無い横断歩道では、歩行者側に「車の邪魔にならないように早く(急いで)渡りきらなければならない」という心理が生まれがちです。特にこの動画のように車が「止まってくれた」と思わせる状況では、「止まってくれた車を待たせないように急ぐ」という心理が働きがちです。

このような場合に、上記の「ポイント1」や「ポイント2」のような車両があった場合には(けっしてまねなことではない)、事故に発展する可能性が高まります。